

情報モラル学習

練習用チャットルームの活用を通して

豊里小学校 (実践・報告者) 石田三枝

- 1 単元名 チャットの特質 「チャットの危険性」 第5学年 (道徳)
内容 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること

2 単元の目標

- ・児童がインターネットを利用して情報を集めたり、電子メールやチャットを介して情報を発信したりする活動を通して、ネットワークの良さを知るとともに、ネットワークの問題点や危険性に気づき、情報モラルが大切であることがわかる。

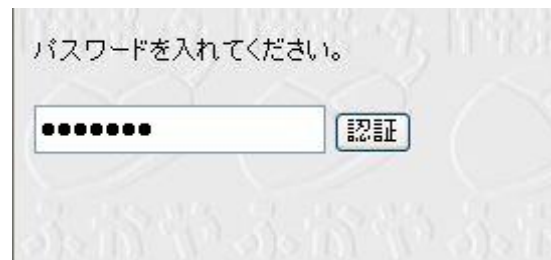
3 情報教育の視点

インターネットの普及に伴い、児童は学校や家庭で身近な情報源の一つとしてこれを利用している。本学級でも、8割近い家庭にパソコンがあり、5割はインターネットに接続されている。インターネットを使うと、たくさんの情報を集めることができ、世界中と瞬時に繋がることもできる。しかし、その反面有害な情報や、発信した情報が不特定多数の人に見られることから生じる危険性など影の部分の問題も多い。

このような中で、児童が社会の一員として主体的に活動していくために、有害な情報の危険性を知り、その対処の仕方がわかり、お互いの人権を守るために情報モラルが大切であることを理解し、情報社会に正しく参加していこうとする道徳的な態度を養っていきたい。

4 実践の概要

(1) 使用サイト



チャット練習用サイトには、外部からのアクセスを防ぐために、パスワードを設定してもらい使用。

PCボランティアグループ **ITサポーター深谷**

(<http://itsf.sakura.ne.jp>)

(2) 展開

| | 学習活動と主な発問 | 指導上の留意点 | 評価の観点 |
|----|---|---|-------|
| 導入 | 1 チャットについて知る。 ・チャットをしたことがありますか。 ・どんなことに気を付けてチャットをしたらいいと思いますか。 ・アイコンの使い方を確かめておきましょう。 | チャットは、チャットルームにアクセスし、複数の人が書き込みを行い、楽しむ場であることを知らせる。 特別なことではなく、インターネットを使う場合でも、相手のことを思いやる気持ちを持つことが基本的なルールであることをおさえる。 練習用チャットの画面を見せながら、アイコンの使い方や書き込みの方法を知らせる。 教師が職員室のPCからアクセスしているボランティアの方と、実際にチャットのやりと | |

| | | |
|--------|---|--|
| | | りを行ってみせる。 |
| 展 開 | 2 グループごとに練習用チャットを行う。 ・グループごとに、自由に書き込んでみましょう。 | チャットに全員が参加しているか確認する。 ボランティアの方に、故意に悪意のある書き込みをしてもらう。 進んでチャットの書き込みに参加しているか。 (つぶやき・表情・態度) |
| | 3 チャットを行った感想を発表する。 ・チャットをやってみて、どんな感じでしたか。 ・何か、困ったことやおかしいと感じたことはありませんでしたか。 | チャットを終了して、チャットの途中で感じたことや気になったことを発表する。 楽しさだけでなく、問題となる点も出させる。 |
| | 4 チャットの良い点・問題点について考える。 ・チャットの良い点はどんなところでしょう。 ・これからインターネットを使ってチャット等を行うときに、気を付けなくてはならないことはなんでしょう。 | 発表された意見をもとに、チャットの特質や危険性について話し合う。 これからチャット等の書き込みをする際の注意点をまとめる。 (悪口・悪ふざけ・なりすまし・個人情報) 自分達で問題点を見つけだし、正しい対処の仕方を話し合おうとしているか。 (挙手・発表) |
| 終末 | 5 わかったことをまとめる。 ・今日の授業で感じたこと、これからの自分に生かせることまとめてみましょう。 | ボランティアの方を紹介し、個人情報の大切さを伝える。 |

(3) チャットの書き込み・児童の感想

| チャットの書き込み | 児童の感想 |
|--|---|
| ちなガ～ル-> アンパンマン、かかってこ～い ちなガ～ル-> おりゃ アンパンマン-> 土羅得茂ン、対決しようぜ ちなガ～ル-> せいぎはか～つ シナモン-> ちーっす ちっぷとゆうちゃん-> 絵文字はキーボードじゃ できナインだーシナモン どらみ-> どらちゃん、かわいそう。おうえんするぜ! ちなガ～ル-> どらえもん、がんばれ! ぜに形けいじさんが入室しました おっちゃん-> アンパンマンさん字がちがってないですか シナモン-> そうなの(^_^) ちなガ～ルさんが退室しました どらみ-> じゃ、またね。 | <ul style="list-style-type: none"> ・チャットは楽しかった。 ・大勢でやればやるほど楽しい。遠くの人ともできるのでなおさらいい。 ・相手といろいろ話せて楽しかったけど、自分のことが相手に知られることもあるんだな。 ・声を出さなくても書いて気持ちを伝えることができる。友達が増えると思う。 ・キーボードが速くうてるようになった。 ・みんなに伝えたいことが、チャットならいっきに話せるから便利。 ・うそを言うてはいけないけど、個人情報を聞かれたときは、話をそらす。 ・人の嫌がることは書かない。 ・他人のことは書かない。 ・嫌な言葉を書かれたら、「その言葉はやめた方がいいよ」など言葉をかけてあげる。 |

5 成果と課題

児童は書き込んだ内容が瞬時に画面に現れることや、離れた場所にいる知らない人とでも会話できることに興味を持ち、楽しくチャットを行っていた。しかし、乱暴な言葉遣いや悪口の書き込みを見て、気分を害し不満を口にするようになった。チャット終了後、感想を求めると全員が「楽しい。もっとやりたい。」と答えた。数名の児童から、「嫌なことを書き込んだ人がいた。」とボランティアの方の匿名があがってきた。相手の気持ちを考えない書き込みに気づき、これからの活動の中で、自分達がどのようにしたら良いか考えることができた。実際、次の時間には入室の際に「こんにちわ。」とあいさつをしたり、他の書き込みを読んで返事をするなど、自分勝手な書き込みが減った。

この授業で、名前や性別、年齢や住んでいる所などの個人情報について、匿名のボランティアの方が質問すると、児童は簡単に答えてしまっていた。インターネットという不特定多数の人が見ている危険性について全く感じていない。画面に向かって書き込みをしていると、その後ろにいる人間を意識しなくなってしまうことが多い。しかし、インターネットというネット社会では、たくさんの人が関わり合っているということを児童に理解させることが大切であると感じた。